



### ◎道路愛護に關する建議

道路愛護運動に粉骨碎心して居る石川縣羽咋郡志雄町中  
村長久氏は今回左の建議書を内務大臣に提出した。

#### 建議書

##### 建議要旨

一、地方道路愛護團體聯盟結成ヲ促進助成ノ件  
一、府縣ニ專任ノ道路愛護指導係ヲ設置スルノ件理由  
交通運輸機能ノ完備如何ハ文化ノ普及産業ノ發展並ニ國防  
上ニモ密接ノ關係ヲ有シ之カ施設ノ良否ハ民力ノ消長國運  
ノ隆替ニ影響スル處甚タ大テアルコトハ申スマテモナイコ  
トデアリマス

而シテ各種交通機關ノ中道路ハ遍ク地方ニ分布シ其ノ利用  
範圍極メテ廣汎ニシテ効用又大ナル丈ニ之カ維持改良ノ徹  
底ハ殊ニ緊要ナルコトト存シマス吾國ニ於ケル國道始メ地  
方ノ道路ハ道路法ノ定ムル處ニ依リ地方長官又ハ市町村長  
之ヲ管理シ之カ實質ノ改善ニ就テハ夫々財政ノ許ス範圍ニ  
於テ銳意力ヲ竭サレツ、アルモ限リアル人員ト經費トヲ以  
テ之カ維持ノ完璧ヲ期スルコトハ實ニ至難ノ業デアリマシ  
テ昭和七年度以降時局匡救事業等ニ依リ一般道路ノ新設改  
良等從來ニ倍加スル車行延長ヲ見ルニ至リ之カ維持ニ對シ  
テハ地方財政上尠カラヌ困難ヲ醸シ來レルノ狀當該地方人  
民カ其ノ關係深キ道路ノ維持修繕ニ應分ノ寄與協力ヲ爲ス  
コトハ實ニ社會奉仕ノ精神ノ發露タルニ止ラス當然ノ責務  
ナリト感スヘキモノト信スル次第デアリマス。

我カ石川縣羽咋郡志雄町地方ニ於テハ大正十三年以來道路  
愛護デロー催フシ尙昭和九年以來其ノ目的達成ノ爲ニ道路  
愛護會ヲ設立シ吾等ノ道路トシテ自治的ニ年中道路ノ維持  
修繕ニ協力シ其ノ成績極メテ良好ニシテ石川縣内ハ素ヨリ

隣縣富山縣ヲ始メ漸次各地ニ普及シツツアルハ誠ニ欣快措ク能ハサル所デアリマス然レトモ只一部の地方民ノミテハ近代交通ニ對スル道路保全ハ到底期シ難ク進ンテ全國的ニ統制アル指導ノ下ニ愛護精神ノ普及ヲ圖リ始メテ道路交通ノ効果ヲ完クスルコトカ出來得ルモノト信シマス。

右ノ如クシテ廣汎ナル奉仕的道路愛護團體ノ活動ヲ促シ限定サレタル經費ノ及ハサル所ヲ補ヒ以テ道路ノ保全ヲ期スルノ必要アルヲ痛感シテ居リマス

閣下願クハ克ク之ヲ審議シテ地方團體ヲ統一シ全國道路愛護聯盟結成ノ機運ヲ促進助成セラレ尙進ンテ各府縣ニ專屬道路愛護係ヲ設置シ之カ指導ニ拍車ヲ掛ケラレムコトヲ茲ニ謹ンテ建議致マス

昭和十一年六月二十八日

石川縣羽咋郡志雄町字向瀬五十九番地

石川縣志雄町羽咋町富永村

富山縣速川村聯合道路愛護會長

中 村 長 久

内務大臣 潮 惠之輔殿

尙本會々長へも同文の建議書を提出された。

### ◎新京濱國道築設必要の公表

内務當局では京濱國道の行詰狀態を打開せんが爲めに新らしく繼續事業として新京濱國道を築設することとなりたる爲め左の意見を公表された。

新京濱國道に就いて——新京濱國道は何故に必要であるか、新京濱國道は如何に計畫せられてゐるか、此の二問に對して概略を説明して參考に供せんとする。一、飽和交通量の京濱國道、その聲を聞くこと可なり久しいが、一體どの程度の交通量があるか。昭和九年十二月八ツ山で（芝區と品川區との境界附近）調査したる處に依ると、朝七時から夜十時迄の十五時間の交通量は、自動車二萬三千八百五十五臺、自轉車二萬八千五百五十臺、其の他の車四千二百八十臺、歩行者七千六百三十人の多きに達してゐる。然し如何に交通量が多くとも、道路がそれに對應するだけ廣けれ

ば支障はない譯であるが京濱國道の現在幅員は今の交通量に比べては矢張り狭いと言ふの外はない。歩車道の區別がないので二十五哩で走る自動車もあれば之が進行を妨ぐる自轉車があり、更に又之を妨害する牛馬車荷車があると云ふ有様であるから、爲めに交通状態は著しく混雜を呈するのみならず、夥しい事故が発生してゐる。昭和九年中の事故は千五百五十四件で死者三十四名、傷者九百八名、物件損傷亦相當額に上つてゐる、此の一日に三名の負傷者、十日に一名宛の死者は年々繰返されてゐる譯である。十年前、土砂道が一躍幅十間乃至二十間の鋪裝道路に擴張せられた當時は廣過ぎると言つて非常に非難する人さえあつたが今日既に此の状態である、若し此の儘で進めば交通量の増加に従ひ交通状態は益々錯雜混亂を呈し、自動車か荷車を追抜くことも困難となり、自動車、自轉車、荷車までが殆ど同じ速度でぞろ／＼動いて行く奇觀を呈するに至るであらう、京濱國道の現状斯くの如くなるを以て之が交通量緩和の爲新京濱國道新設の議は起つた譯である。二、抑々

新京濱國道とは國道三十六號線の俗稱であること、京濱國道が國道一號線東京横濱間の俗稱であるが如くである、東京横濱間の國道として三十六號線の認定せられたのは昭和九年五月であるが今や其の改良計畫は全く整ひ本年度から事業に着手せられることになつてゐる、改良計畫は東京荏原區戸越町と横濱市神奈川區神奈川町との間の延長十八軒六、幅員二十二米乃至二十五米の鋪裝道路で、事業費千三百萬圓、昭和十一年度より同十六年度迄の六ヶ年間に施行せられることとなつてゐる、工事は直轄工事で多摩川橋を中心にして東京横濱の兩土木出張所（内務技師岩澤忠恭氏兩所長を兼務）で行ふ。此の新國道は大體現國道より二軒乃至二軒八の間隔を距て直線的に並行南進し、多摩川を越して横濱市に入るものである。その間多摩川橋を始め跨線橋六、陸橋二、架道橋入江橋地下道等か計畫せられてゐる、道路幅員は東京側二十五米、横濱側二十二米で、歩道車道の區別は勿論、車道は高速緩速兩車道に分けられ、緩車車道は更に自轉車道と其他車道とに區別せられること

になつてゐる。此の道路に於ては自動車が自轉車に妨げられることもなく、自轉車が荷車に妨害せられる心配もない、交通は滑かに行はれて事故は殆どなくなる筈である、又本道路完成の曉は京濱國道の交通量が二分せられる結果此の方面亦甚しく助かる、又一面交通の容易は必ずや産業の發達を促進しなきだに發展しつゝある京濱間の工業地帯の躍進は期して待つべきものがあらう。

◎内務省に於ては道路改良事業に關して左之通り發表され

た

### 道路改良事業の概要

政府は大正八年道路法を制定すると共に、道路會議の意見を徴して道路改良計畫を樹立し、道路公債法を制定して道路の改良を策した。即ち大正九年度以降三十箇年間に亘り、専ら公債を財源として國費二億八千二百八十萬圓を以て國道約二千里、主として軍事の目的を有する國道約七十

里、特殊の事由ある府縣道約四百里及び六大都市の街路の改正を完成せしめる爲國庫より補助することにした。之が本邦最初の基本的道路改良計畫で、所謂第一次道路改良計畫である。

然し其の計畫は大正十一年度迄の三箇年間は計畫通り實行することが出来たけれども、大正十二年の關東大震災の爲に、政府財政を一般的に緊縮する必要が起つたので、次第に其の實行額は制限せられ、之が財源も一般歳入を以て充當し、公債支辨は見合せられるに至つた。

本計畫に依る工事施行は、大正九年度より昭和七年度迄の十三年間であるが、その間の計畫額一億一千二百八十萬圓に對し、實行額は四千六百五十二萬一千十圓である。

第一次道路改良計畫の實行は以上の如く遅々として進捗しなかつたが、一方自動車は大正八年末全國で乗用三千六百六十五臺、貨物二百四臺しかなかつたのが、昭和四年末には乗用五萬二千八百二十九臺、貨物二萬七千五百四十一臺となり、然も尙その發達が道路の不良の爲に抑制せられ

てゐる狀況であつた。

政府はこの狀況に鑑み、昭和六年に於て交通の容易と安全とを圖り産業を振興する爲に、道路改良五箇年計畫なるものを樹立し、昭和七年以降之を實施することとした。その計畫は國道改良の直轄工事並に補助工事と、府縣道改良の補助であつた。

この計畫は國道及び軍事國道改良費一億四千五十七萬二千圓、その延長約五百六十里、府縣道路改良費補助五千萬圓、その延長千二百五十里、其の外國道改良費補助千八百十萬圓、街路改良費補助二百三十二萬八千圓、道路行政監督費百萬圓で合計二億千二百萬圓であつたが、昭和七八年の兩年度に於て實施せられたるに止り、その間の計畫額と實行額とを比較すれば、計畫額五千六百四萬二千圓に對し、實行額は四千三百六十四萬四千六百圓となつてゐる。その昭和七年度分は所謂産業振興事業として支出せられたものである。

政府は更に昭和八年土木會議の議を経て、第二次道路改良計畫を樹立した。この計畫は昭和九年度以降二十箇年に亘つて行ふもので、國道改良費が四億四千八百七十六萬八千圓で、その延長千七百六十里、特殊國道改良費八百四十萬圓でその延長約七十里、府縣道改良補助費二億五千五百十三萬四千圓で、その延長七百八十里（未鋪裝）である。

尙この外に補助費四千百萬八千圓は、現に地方に於て國庫補助を豫定して工事に著手し、國に於てその一部に既に補助したる國道府縣及び街路の改良工事に對し、昭和九年度以降十箇年間補助すると言ふ計畫である。

本計畫に基く昭和九、十年度の計畫額は七千二百十萬圓なるに、その實行額は千四百十三萬八百三十三圓に過ぎない。

右に述べた第一次、第二次道路改良計畫及び道路改良五箇年計畫の三基本計畫に依る實行額は、昭和十年度迄に一億四百二十九萬九千四百四十三圓になる譯である、然し道路改良の爲に投ぜられた國費は、以上の三計畫に基くもの

に止る譯でなく、大正八年に國道改良費補助五十萬圓が支出せられたる外、昭和六年度失業救済事業二千七百四十八萬八百六十三圓、昭和七年度産業振興事業北海道分百萬圓、京濱都市冬期應急失業救済事業百三十七萬一千三十三圓、農村振興事業昭和七年度三千三百六十六萬一千圓、同昭和八年度四千十五萬一千六百六十七圓、同昭和九年度一千二百五十六萬九千圓、同昭和十年度一千三百四十二萬三千六百十圓、合計一億四千五百十五萬七千七百七十三圓が支出されてゐる。これには國道改良費並に國道、府縣道、街路、

町村道の改良補助費及び事務費が含まれてゐる。

以上の全計畫及び事業に於て、道路の爲に支出せられた國費を道路別に見ると、國道改良費六千七百九萬百十七圓、國道改良費補助三千百八十九萬六百三十四圓、府縣道改良費補助三千九百九十七萬四千七百七十四圓、街路改良費補助一千六百三萬三千九百九十七圓、町村道路事業費補助八千八百三十六萬九千六百六十七圓、事務費六百八萬九千二十七圓、合計二億四千九百四十五萬六千六百十六圓である。

而して、道路改良費特定財源に付調査するに、道路公債と國道直轄事業の地方負擔金とがある。道路公債法に依る募債額は、大正九年度より昭和十年度に至る迄に七千九百三十一萬三百六十六圓五十八錢九厘で、總支出額の約三分の一に當つてゐる。譯である。尙國道直轄事業の地方負擔金は、昭和六年より昭和十年度末迄に二千五十八萬六千六百七十九圓徴收せられ、直轄事業費の約三分の一である。

### 三

道路改良に關する計畫と、その實行は大略前述の通りであるが、之に依り改良せられたるものは如何と言ふに、國道府縣道のみが付ても、昭和十年三月末迄の改良延長二千三百七十九萬七千七百三十四米であるが、その總延長の約二割に相當するに過ぎない。改良道路の構造は特別の事情のない限りは、道路構造令の規格に依り改良せられてゐるのは勿論である。

次に、最近に於ける本邦道路の狀況を、昭和十年三月末現在で調査した處に依つて見るに、國道府縣道に付ては大

様次の如くである。

先づ幅員に付て自動車交通可能なるものは、軍事國道二割九分、國道八割四分、指定府縣道六割、その他府縣道三割八分である。道路構造令規定通りの幅員を有するものは軍事國道に於て僅に三分八厘、國道に於て一割八分九厘、指定府縣道に於て二割、その他府縣道に於て僅に六分六厘である。

その鋪裝延長に至つては、特殊國道に於て僅に一分七厘、國道に於て一割一分、指定府縣道に於て僅に三分九厘、その他府縣道に於て一分四厘に過ぎない。

斯かる道路の狀況では、昭和九年末に乗用七萬四百八十一臺、貨物四萬二千五十九臺となり、尙夥しく増加しつつある自動車の普及性に順應しないのみならず、まだ之が發達を抑制してゐる状態であつて、道路改良事業の前途頗る遼遠なことが知られる。

### ○府縣道足利市停車場線中橋竣工式

足利市は古來より織都として其の名天下に顯傳せられ近時時代の進運に伴ひ、現代的色彩を加味するに至り産業都市として益々重要性を帯ぶるに至り、足利産品の需要者は國內のみならず遠く國外に及ぶに至つた、従つて同市生産機能の良否は直ちに國民生活に波及する位である、足利市の中樞地域は渡良瀬川左岸に位してゐるが其の地勢上、生産的原料と消費的材料とは大部分南部一體の地域から仰がねばならぬ、然るに渡良瀬川の横過するありて交通連絡全からず遺憾の聲を聞くこと既に永しきものがあつた、足利市内に於ける渡良瀬川橋梁は三橋を數へ其の内中央部に位する中橋は南郊の原料地域及帝都との連絡捷路たる重要地位を占むるに拘らず久しく假橋のまゝ放置せられ近代交通の要求に應じ得なかつた、茲に於て官民協力の下に一大橋梁の架設を計畫し昭和九年之が工事に着手し今やその功全く成り、昭和十一年八月七日松村栃木縣知事祭主となり内務大臣代理新居内務省道路課長其の他貴顯紳士數百名參列の下に盛大な開通式を舉行するの運に至つたのである、神

官修祓の儀、降神の行事嚴に取行はるゝや、流石祝賀に逸る足利市民もしばし鳴を鎮めて長へに新橋の効果完からんことを禱るものゝ如くであつた、當日は足利産業の守神たる織姫神社の新装成り第一回の七夕祭、季節織物品評會煙火大會とが併せ行れ特に同市出身の新居内務書記官が内務大臣代理官として式に參列さるゝのことで人氣彌が上にも沸騰し無慮四十萬の人出と稱せられ足利市未曾有の盛儀であつた。

由來渡良瀬川は傳説の天の川に擬へられ、足利市産業の守神織姫は天空のロマンスを其儘持降つた織女星である、且織姫は現に機業に従事する美くしい乙女にも通ずる「多數の織姫達が半裸となつての髪洗ひ……機が織れない機神様よ、どうぞこの手があがるように……眞向き腕もあらはに曉闇の河畔に浮く裸像の魅惑は妖しくも又惱ましき青春の豪華なり」といふ句を何かの中で讀んだことがある。斯く産業は機械化するも彼女等の地位は不動のものであらねばならぬ、足利全市に滿つる典雅な色紙細工の竹飾りと打

上げらるゝ煙花とは七夕神に捧げらるゝ全市民憧れの表徴であると言つて差支あるまい、而して是等盛大なる狀況は渡良瀬川畔に据付られたマイクを通じ放送された、機を見るに敏な市の完璧な計畫に對しては驚嘆せざるを得ない。夏季の涼み臺となつた船場は姿を消し、増水の停船も今は懐かしい思ひ出となつたといふ古老の言葉も強く我等の耳を打つものがある。

念ふに中橋竣功の効果と足利織産の隆盛とは獨り足利市民のみの幸福に非ず、之を需要する全國民の幸福である。

因に當日松村栃木縣知事の式辭及内務大臣の祝辭は左の通りである。(橋梁の詳細は別稿栃木縣土木課長春藤眞三氏の工事報告を参照ありし)

式 辭

中橋架設工事竣功ヲ告ケ本日茲ニ開通ノ式典ヲ舉行スルニ方リ内務大臣閣下代理官ヲ始メ多數諸賢ノ御來臨ヲ辱ウシタルハ寔ニ欣幸トスル所ナリ

由來足利ノ地ハ織物ノ産地トシテ其ノ名内外ニ高ク市勢



隆盛ヲ極メ交通亦頻繁ナリ、然ルニ本市ハ渡良瀬川ヲ挾ンテ二分セラレ僅ニ既設渡良瀬橋一橋ヲ以テ主タル連絡道トセルニ過キス、阿南東武鐵道足利市驛ヲ利用スル市民ノ大半ハ著シク迂回ヲ餘儀ナクセラレ且一般交通者ノ不便モ又尠ナカラザルニ鑑ミ地元足利市及東武鐵道株式會社ヨリノ多大ナル寄附金ヲ基礎トシテ縣ハ昭和五年之カ架設費三十六萬圓三箇年繼續事業トスル豫算ヲ時ノ通常縣會ニ提案シ其ノ議決ヲ得タルヲ以テ昭和九年四月着工爾來銳意工事進捗ニ努メ本日茲ニ其ノ工ヲ竣ヘタリ、其ノ構造體裁共ニ市街橋トシテノ面目ヲ保持セシメ且將來ノ交通ハ勿論一面渡良瀬川改修ノ計畫ニ鑑ミ支障ナカラシコトヲ期シ以テ産業ノ振興文化ノ進展國運ノ興隆ノ上ニ資スル所アラントセリ

茲ニ本橋工事中多大ナル援助ヲ各マサリシ地元關係有志各位ノ御厚情ヲ感謝シ併而將來ノ維持管理宜シキヲ得永ク其ノ效果ヲ收メラレンコトヲ望ミテ己マス一言以テ式辭ト爲ス

昭和十一年八月七日

雜報

祝辭

栃木縣知事正五位勳四等 松村 光 磨

府縣道足利市停車場線中橋架設工事成ルヲ告ケ茲ニ本日ヲトシテ竣功ノ式典ヲ舉ゲラル洵ニ慶賀ニ堪ヘザルナリ由來足利市ハ縣下屈指ノ産業中樞地ナルニ拘ラス渡良瀬川ニ依リテ其ノ南郊及東武足利市停車場トノ間ヲ中斷セラレ交通連絡全カラザリシハ久シク遺憾トスル所ナリ今乃チ官民協力ノ下ニ新式精緻ノ構法ニ依ル新橋ノ成ルヲ見ル惟フニ今後交通上ニ至大ノ利便ヲ齎スト共ニ産業上ニ資補スル處尠少ナラザルモノアルベシ翼クバ將來維持管理宜シキヲ制シ以テ長ニ其ノ效果ヲ收メラレンコトヲ一言述ヘテ祝辭トス

昭和十一年八月七日

內務大臣 潮 惠 之 輔

## ◎新刊圖書紹介

### ○アルス土木大講座「鐵筋コンクリート設計法」

永田 年著 (第一回配本)

吾が畏敬する先輩永田年氏の著「鐵筋コンクリート設計法」がアルス土木工學大講座の第一回配本として世に出た。同著を繙く者は先づ氏の明快な解説と之に配するに用意周到懇切にして俗に曰ふ辛い處に手の届くが如き配慮に對して感謝を惜まないであらう。鐵筋コンクリート部材の設計原理は解し得ても之を實地に應用して設計する實際問題に遭遇するや使用すべき算式の選擇に迷ふ事が多い、又結局は其目的とする處に到達し得ても捷徑を踏まなかつた爲めに努力の濫費の犠牲を拂ふ事が屢々ある、氏は會ての現場の經驗、内務省に在つて永年監督の地位から尙之に加ふるに教壇に於ける經驗と綜合して屢々遭遇する機會多

き部材の設計や一般が最も切實に求めて居る點、苦しんで

居る點等を充分に洞察され特に意を此等の點に傾注して記述されて居る事が窺はれるのは本著を手にする者に取り此上無き幸福と云ふも過言ではあるまい。即ち重要なるポイントの現はれる毎に適切なる實例を採つて夫れに對する算式の運用の誤りなきを期し、又圖表計算表を別冊にして設計々算に際しての便益を計る等斯道の實際家にあらざれば企及し得ない心の配り方であり、尙本書の附録には三次方程式の圖式解法と其の漸近解法を簡明直截に解説された事は錦上更に華を飾るもので本書をして一段と良書たらしめた由因のものであらう、敢て江湖のエンジニア諸彦に御推薦する次第である。

尙鐵筋コンクリート部材の設計細目に就ては土木學會鐵筋コンクリート標準示方書に、用語に就て同學會の標準用語に何れも準據して居る。

### ○アルス土木大講座「鐵道工學」(第二回配本)

一日土木工學研究中の一青年來り、卓上にある「鐵道工

學」を一見し此書は其の説明平易で而かも廣範圍に亙り吾々初學者に對しては懇切な教科書であり實際施工に従事せる者に取つては周到な指導書である、と讃辭を述べた事である、就いて一讀するに其の講述する處第一編鐵道線路と題して路盤及施工基面、構造物(側溝伏樋鐵道橋トネル)建築限界、車輛限界、第二編軌道と題して軌道の構造及び軌間、軌條及其の附屬品、軌條接目、軌條附屬品、枕木、道床、軌道力學、緩和曲線及縱曲線、軌道敷設、軌道用機械器具、第三編分岐器交叉と題して分岐器交叉の種類、分岐器の構造、特殊分岐器、應用(分岐互線、交叉互線、菱形交叉、互線付交叉、三枝分岐、脫線分岐器)計算、分岐器轉換裝置、第四編軌道附屬物及線路防護施設として線路上の標識、棚垣及其他の境界設備、踏切設備及立體交叉、軌道附屬物、防波、防電其他災害豫防施設、第五編停車場と題して停車場の意義、目的、種類、位置、普通停車場、旅客停車場、旅客終端驛、客車停車場、貨物停車場、貨物驛設計の實例、水陸車連絡設備、貨車停車場、第六編運

轉、信號及保安設備と題して運轉、4線軌道に於ける軌道の使用方法、鐵道信號、聯動裝置を説述したるもので著者は鐵道省東京改良所長黒田武定及鐵道技師岡田信次兩氏である、其の學識經驗に基きたる著述なれば前記一青年の讚辭は決して過言であるべき理がない、岡田技師が脱稿に際して自動車や航空機の異常なる發達につれ鐵道が交通機關としての價値が減ぜられるかも考へられるが自動車には自動車としての使命があり、航空機には航空機としての任務がある、……鐵道は依然として一國交通機關の王座として文化の開發者たるの地位を失はない、夫れくの分野を守り連絡を密にして益々文化の進展に資すべきである、而かも我國内の鐵道の延長軌條重量の増加機關車構造の進歩經費の節約等に鑑み速度の昂上、列車の増加、旅行の快速輸送の安全、運轉時刻の正確等愈々益々利用の向上的要求に應じなければならぬ、此時代の要求に對し本書を著述したものであると其の著述の方針を明言して居るに徴しても本書の價値を鑑別し得るのであらう、敢て蛇足を加ふるの

要なしと思ふ。

「技術者  
必携 道路便覽」

内務技師  
工學士

末松 榮著

土木事業に關係する人々の内で道路工事に従事する人は相當に多い。是等の人々が其業務の實際に必要な諸計算表例へば縦横斷勾配、緩和切線の設定、鋪裝材料の實施數量等を求むるに當つては從來手頃の参考書が殆んど無く種々苦心し、其面倒なのに惱されてゐた。然るに今回道路構造令細則の改正を期として是等の不便を一掃し技術能率を増進すべく刊行されたのが本書であつて、斯界技術者の爲に一大福音である。

本書の内容は主として道路構造に關するものであるが、今其特色と見るべきものを要記すれば、

- 一、道路構造令細則の説明之に關する諸表を網羅したと
- と
- 一、縦斷曲線の設置に際し從來の如く曲線長を限定せず自由に求め得ること

- 一、緩和切線を極めて簡單に求め得ること
- 一、横斷曲線は道路の幅員によつて直に求め得ること
- 一、屈曲部曲線設置の諸表を交角二十秒讀みとしたこと
- 一、道路各種鋪裝の實施上の注意事項及一位代價表を詳述したこと。

一、材料の實施數量を其實驗から求め之を公表したこと等、以て著者の用意と態度とを知るに足るであらう。尙附録として内務省土木試験所設定の標準鐵筋コンクリート桁橋設計圖六枚及標準國道鉸桁設計圖九枚を添へたるは大に讀者の參考となるであらう。要するに本書は道路關係技術者の一日も缺くべからざる至寶至便の書と云ふべきである（定價金參圓、神田區神保町二丁目山海道出版部發行）

正 誤

本誌第十八卷第二號（本年二月刊行）の附録三九頁七行目に「プロックマンと云ふ人」とあるは「牧彦七博士」の誤